

茶ぐわ〜 ゆんたく

お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？

178

写真1枚をきっかけに 地域の歴史、学びの種

上の写真は、おそらく1950(昭和25)年代後半から1970(昭和45)年代後半に撮影された、現在の国道330号石平交差点から普天満宮向けに撮影された写真です。写真中央をよく見てみると自動車道が右側通行のため、車道変更前の1978(昭和53)年以前に撮影された写真であることが分かります。



▲ 1950年代後半～1970年代後半 撮影

ますね。写真左には、「CALTEX」(※見切れています)の看板が写っています。これは米国生まれの給油所です。米国統治下の沖縄で戦後約20年間、石油供給権を独占し、県内において給油所の代名詞となりました。

下は現在の様子です。給油所があった場所はコンビニエンスストアが建ち、右側は陸軍情報施設(フォートバックナー)があります。実はこの施設が立っている場所は、「普天間後原第一遺跡」「普天間カンジャーヌウイー古墓群」そして近年確認された「普天間スクナグ丘陵古墓群」といった文化遺産があったとされています。

写真1枚から様々な背景が見えてきます。皆さんも手持ちの写真から地域の歴史をたどってみませんか？

【問合せ】
市立博物館 ☎ 870-9317



▲ 2019(平成31)年 1月撮影

はくぶつかんの 部屋 49

宜野湾市の歴史や文化などを
紹介します



市立博物館
イメージキャラクター
天女ちゃん

宇地泊の移り変わる風景 〜ぎのわんの「字」展によせて〜

市立博物館では、毎年市内各字(あざ)の自治会を中心とした地域の方々と一緒に、「ぎのわんの「字」展」を開催しています。今年は、宇地泊にスポットを当てています。

戦前の宜野湾村は農業が中心でしたが、宇地泊は海岸に面していることから、漁業を生業にした半農半漁の集落でした。海で獲れた魚介類は、集落の女性たちが近隣に売りさばっていたといえます。

戦後は、集落の大半がすぐさま米軍に接収されキャンプ・ブーンとなりました。そのため、戦後しばらくして故郷に戻ってきた人々は、接収されずわずかに残った土地や近隣の地域で暮らすことを余儀なくされました。

その後、キャンプ・ブーンは1974(昭和49)年に全面返還されます。返還後の1978(昭和53)年7月30日、道路の通行方向が変わる、いわゆる「ナナサンマル」の時、キャンプ・ブーンの広大な跡地には左側にドアの付いた新しいバスが一時保管されていました。(写真)

しかし時代が流れ、現在基地があっ

た面影はありません。区画整理が行われ、基地の跡地には住宅が立ち並び、1980年代からは海岸の埋め立てが行われました。また、国道、県道など道路の整備、近年では商業施設の建設に加え、マンションやアパートの建設などにより人口も年々増え、街並みは大きく変わりました。

今回の字展では、その宇地泊の歴史や民俗等を紹介いたします。ぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

【問合せ】
市立博物館 ☎ 870-9317



▲ 新車のバスが並ぶキャンプ・ブーン跡地(1978年)
(『写真集「ぎのわん」』より)

◆ぎのわんの「字」展◆
美らさ浜ぬ真砂 うちどうまい
期間…1月23日(水)〜3月3日(日)
場所…市立博物館 企画展示室
入場…無料